

生涯学習センターの動向

高頭 麻子

生涯学習センターは、在学生・卒業生・一般市民の方々を対象に、学内外の生涯学習活動の連携を図りつつ推進することを目的として、1995年に西生田キャンパスに「西生田生涯学習センター」が、創立百周年の2001年に目白キャンパスに「生涯学習総合センター」が設置され、2008年に二つを統合して現在の「生涯学習センター」(Lifelong Learning Center 略称 LLC)になった。

現代社会における生涯学習の重要性はますます高まっており、また情報機器の目覚ましい進歩や社会の変動に伴い、事業の内容も検討・変革を重ねて今日に至っている。現在行っている公開講座事業・リカレント教育事業・相談事業・施設提供のうち、最初の2つの事業について記述する。

<生涯学習センター公開講座>

目白キャンパスでの今年度開設講座数は103、うち開講102講座、総受講者数2,441名、総延人数31,014名、西生田キャンパスでは、開設講座数73、うち開講65講座、総受講者数1,436名、総延人数15,447名であった。

受講料無料の特別講演会としては、前期(6月)に、映画監督の松井久子氏の「女性たちの思いを映画に託して」、後期(11月)にブロードキャスターのピーター・バラカン氏の『『住めば都』と『腐れ縁』』を開催し、いずれも大変好評であった。西生田キャンパスでは、川崎市教育委員会との連携で、「西生田キッズレンジャー」、「遊びはコミュニケーション」など近隣親子向け講座や、水谷類氏の「平地人を戦慄せしめよー日本民俗学の父・柳田国男のメッセージ」、本学名誉教授、片桐芳雄氏の「日本女子大学創立者・成瀬仁蔵一長州の『遅れてきた青年』・なぜ女子高等教育?」などの講座を受講料無料で提供した。

キャリア支援講座では、「消費生活アドバイザー試験対策講座(家政経済学科共催)」「旅行業務取扱管理者対策講座(文学部共催)」など、学部学科共催の講座にも力を入れている。授業の空き時間を活用し年間100レッスンを受ける「毎日学ぶ課外英会話講座」は341名が受講し今年も好評を得た。

また、「文京アカデミア講座」4講座の開講、川崎市民への前期3講座、後期3講座の無料提供のほか、一般社団法人日本女子大学教育文化振興桜楓会との連携講座「母から聞いた祖父夏目漱石」(半藤末利子氏)・「歴史的建築遺産の見方」(稲葉和也氏)や、婦人国際平和自由連盟日本支部(WILPF)との連携講座「日本の経済の現状とこれから」(浜矩

子氏)を開催し、学内外の連携を深めている。

<リカレント教育課程>

2014年度の年間の入学者49名と入学者数は増加し、2014年度修了者38名のうち31名が就職を希望し、31名が就職(2015年6月現在、非常勤を含む)した。今年度在学した受講生のうち再就職を希望する者の進路は以下のとおりである(内定を含む)。

	修了者	再就職希望者	正規社員	非正規社員	
				フルタイム	パート
第13回生	15	11	3	6	2
第14回生	23	20	3	11	6
合計	38	31	6	17	8

2012年度から始めた入学・キャリア相談会を今年も前期9回、後期7回開催した。詳しい課程内容の説明と個別のキャリア相談を行っているので、誤った期待や誤解に基づく入学がなくなり、ほとんどの受講生が説明会を経て入学するようになっている。

通常の授業のほかに、2014年度はRIWACと合同会社西友との共催で「セルフリーダーシップ・プログラム」を実施した。これは、再就業を希望する女性たちがそれぞれの不安と向き合って、自分の課題を認識し主体的に行動する力を習得することを目的として、6月の事前講演会(リカレント生のほか、学部の在校生・卒業生も参加)と、9月に5日間、西友の物流センター・惣菜工場・店舗の現場で学ぶ実践的なプログラムである。最終日には、見学した各部署への提案を、西友本社でC.E.O.のステイーブ氏はじめ役員の方々々が並ぶ前でプレゼンテーションし、大きな評価を得た。また、春休み(3月)にも、RIWACとの連携で2日間のワークショップ形式の講座「新しい働き方を考える」を実施し、本学現代社会学科の大沢真知子教授ほか、市川望美氏・堤香苗氏に講義していただいた。

また、生涯学習センターの講座として、<リカレント教育課程連携講座>「働く女性のためのスキルアップ講座土曜日コース」を前期に3講座開催したところ、リカレント生にも、一般の受講生にも好評であったため、後期には5講座、開講した。

7月31日と2月27日に本課程独自の合同会社説明会を、また、恒例となった10月の修了生懇話会を10月18日に開催し、直接の就職に結びついたほか、働く女性のネットワークを広げることができた。

女性の活用が叫ばれている現在、本課程への注目は大きく、5月には内閣府の第4回「再チャレンジ懇談会」に、本課程の創設に奮闘されたソーントン不破直子名誉教授らが出席して本課程について説明した。また、2014年度期間中に、朝日新聞出版(5月、7月)、TBS報道局(9月)、日本経済新聞社(10月)、東洋経済新報社(12月)、日経BP

社(12月、1月、2月)読売新聞社(3月)等メディアの取材を受け、2015年4月には日経電子版に日経 DUAL 掲載記事を編集した記事が掲載された。

今後も、①新卒者にはない働く自覚と自信を備えた即戦力を養うためのカリキュラム、②在校生・修了生一人一人へのきめ細かな就職支援、③講師・在校生・修了生・課程スタッフ・理解ある企業や日米の商工会議所・本課程を応援してくれる自治体など諸機関とのネット・ワーキング、という3つの回路を通して、女性の潜在能力を開花させ、充実したキャリア生活を実現させたい、と考えている。

(たかとう まこ 文学部史学科教授・生涯学習センター所長)